

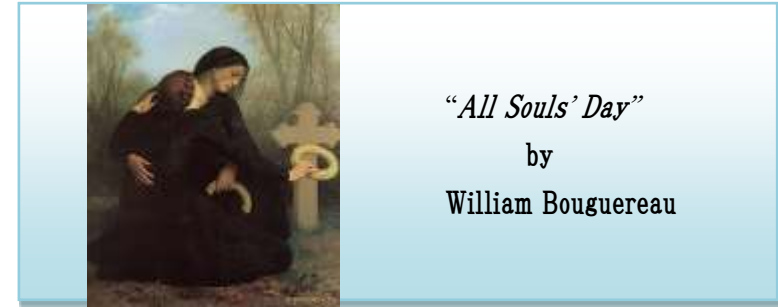
11月2日

諸魂日 All Souls' Day

998年にクリュニー修道院で初めて祝われて以来、西欧諸国の修道院でこの日を祝うミサが行なわれてきました。18世紀になって、スペイン、ポルトガル、中南米のすべての司祭が行なうことを許され、1915年には、教皇ベネディクトゥス15世が、これを全教会に広めました。

ローマ・カトリック教会は、この日を「死者の日」と呼びます。前日の大祝日、諸聖徒日（カトリック：諸聖人の日）は、すでに天国にいるとされる聖人たちを記念する日とされていますが、諸魂日はすべての死者（まだ天国にいたっていない、かもしれない）の記念日です。死者は天国に行く前に煉獄で靈魂の浄化を待ち、そのために生者は死者のために祈るという信仰はローマ・カトリック教会に特有のものであるため、前日の諸聖徒日にすべての死者を記念するプロテスタント教会もあります。

俗に、この日には先祖の魂がなつかしい我が家に帰ってくると考えられています。お墓参りをするのはもちろん、先祖のために食べ物をテーブルに残したり、部屋を暖めておいたり、墓石に聖水やミルクを注ぐという地方もみられます。



イングランド聖公会では、1928年の祈祷書でこの記念日を復活させ、1980年の Alternative Service Book (ASB)、2000年の Common Worship の暦に小祝日として入りました。日本聖公会では、この日にレクイエムを歌いながら、死者のために祈る教会もあります。

ブラジル、エクアドル、エルサルバドル、ハイチ、メキシコ、グアムなどでは法律によって休日とされています。メキシコでは、11月1日と2日を死者の日として、国をあげての祭りが行われます。これはキリスト教が伝わる前からあったその土地の伝統的な祭と、アメリカから伝わったハロウィーンとの影響が色濃く感じられます。人びとは死者のために黄色いマリーゴールドの花や供物を飾った祭壇をつくり、街にはユーモラスなガイコツのグッズがあふれます。

<特禱>

憐れみ深い神よ、み子イエス・キリストは「わたしは復活であり、命である」と教えられました。どうかわたしたちを罪の死から義の命へとよみがえらせ、終わりのときに愛する兄弟（教名・姓名――）とともに、遂にみ国の永遠の喜びに至ることができるよう、主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン